

春を迎え、又春を送る

会長 飯田 龍鷹

今年は暖冬の故か、桜の開花宣言は早かった。然し寒い日もあり、蕾は長持ちした。この期間に「西行忌」のように、桜花の下、吟友の平田さん、溝口さんのお二人が静かに永眠された。そして又、逝く春を惜しむ

院吟日本流精岳

あゆち

第 2 0 号

平成 1 6 年 5 月

報 弘 会 精 岳 田 代 千

平成十六年度岳精流指標

爽やか

かの如く井手さんが旅立って行かれた。三方のご冥福を祈り、ありし日共に吟じた夫々お好きな吟を追想し、往時を偲びたい。

平田俊風様

三月廿六日ご逝去。

薩摩隼人、折り目、切れ目の判然とした俊敏な方でした。会員の中でも先輩格であり、識見の豊かさもあり、顧問をお願いしてきました。詩吟をこよなく愛され、好きなドライブ中は詩吟のテープで吟詠したり、聞いたたりされていたようです。芭蕉の「古池や……」がお好き、又奥の細道（平泉の一節）を最近とみに上達したようです。葬儀で「お父さん」と優しく呼びかけられた奥様の心からの弔辞と、千代田岳精会員の一同の弔意で、安らかなお眠りを祈ります。溝口徳泉様 三月廿七日ご逝去。ご病氣と聞いてから、早い旅立ちをされた様に存じます。昨年一緒の「潮来」吟行で吟詠を楽しみました。兵学校出の武人。昇伝の際宗家にと誉められたのが印象的でした。三田の文人とも伺っており、特に福沢諭吉の「花を惜しむ」の吟には感慨を深くしました。

半生行路苦辛身

幾度迎春還送春

節物忽忽留不止 惜花人是戴霜人

只、夢中で働いて来た若き日、幾

度が春は巡り来たれど楽しむ間なし、老境に至って楽しむ大切さを知る。あわただしく時は過ぎ、春は行くのである。溝口さんの声が聞こえるようです。奥様から会員一同に丁寧なお手紙を頂きました。心からご冥福を祈ります。

井手龍樹様

四月廿四日ご逝去。

緑岳樹詠居士 千代田創設の頃からの吟友井手さん、若く元気な井手さんに先立たれようとは、無念残念と申し上げたい気持ちです。井手さんは①丸ノ内第一教場長 ②鍊水教場長 ③業務委員長 の要職を担当され、心から敬服感謝申し上げます。第一教場は千代田の原点。各教場長が巣立った処です。此処で正しい、清らかな、そして真面目なご指導をされました。鍊水では若い新人達を基本に忠実に教えられました。又更に業務委員長として、若手の人達八人委員会を取仕切って、千代田の業務企画を永年にわたって完遂されました。何れの会員の声も、誠実な人柄を慕うものばかりです。ご入会以来、井手さんの十八番は、杜牧の「山行」

遠上寒山石径斜

白雲生處有人家

停車坐愛楓林晚

霜葉紅於二月花

その澄んだ吟声は耳に残っています。安らかに眠り下さい。

四月廿六日、長泉寺の葬儀、出棺の際、全員で「山行」の合吟でお送りしました。

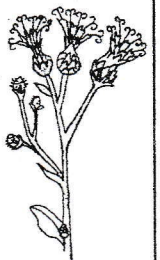
合掌

機構とスタッフを充実

来る廿周年を目前に、千代田岳精会は平成十六年度、組織の充実を図り、指導運営本部、業務委員会、八部門、二担当となりました。



爽やかに若葉と競う吟の声



今年も、四月十七日八重桜が美しい市ヶ谷の宮崎県東京ビルに審査員として石井精植副幹事長、三年前の武道館制覇の深浦精正三河岳精会会長両先生をお迎えしての昇伝審査。昇伝者三十二名は課題吟に、昇段者は各自選んだ吟題で挑戦し、日頃の力を十分に発揮した結果、全員が栄えの昇伝・段を認められました。特に神田教場の粕川恒夫氏は九十六歳のご高齢で初伝「恒泉」の雅号を認許されました。

終了後の懇親会で石井副幹事長は「節調の基礎は皆さん確りしている、しかし十分に詠い込んだ吟題だから暗譜で吟じては」との注文。深浦精正先生は、三河と違う都会の会に深い関心を持たれ「心を込めて審査をさせて頂きました」とご挨拶を頂戴しました。

初伝の審査を受けて

神田教場 粕川 恒泉



林吾風先生の伴奏で頼山陽作「楠公子に訣るるの図に題す」を水四本で吟じました。審査の先生は「よく声が続きますね、お腹で声を出している。大変に勉強になりました」と

云われました。

二、三週間前から受審の為の練習を自宅ではどうやっていましたか？と尋ねられました。余りしていません。ただ息子夫妻が家に来て、ピアノで「発声法」を妻々やりました。それと審査当日、少し早く来て林先生の特訓を受けました。この点が好結果に結びついたと思っています。私自身、内心「本番に強い」のかという気がしています。

初伝雑感

ハザマ教場 二宮 祥泉

早いもので入門して四年になる。大型のダム工事でも四年経てば完成するが、吟に完成は無い。教場で二〇〇時間、カルチャーを含めると延四五〇時間、習った吟は一五〇詩を超え。今年四回目の昇伝審査を受け初伝と雅号を頂戴した。ご指導下さった諸先生並びに吟友諸兄姉に心よりお礼申し上げる次第である。前に美しい吟について書いたが、これに魅力即ち人の心を強く引き付ける何かを加えたいと思う。『相称は美を生じ、相称を破る処に魅力が生じる』と云う。蛾眉の片類についた一点の小さな黒子だ。但し

付いている位置が悪ければ単なる汚点、大き過ぎれば嫌みになる。詩の心を自分なりに理解する事は読書百遍で出来るが、適切な黒子を付けねば良い表現は出来ないと思う。一人で考え、試してみても仲々合点がいけない。詩経に『他山の石以って玉を攻くべし』と云う言葉がある。他人の吟を良く聴く事が大切である。これからも吟友の皆さんと共に現状に満足せずに百尺竿頭一步を進めたい。

初伝審査に寄せて

丸の内女子教場 山手 遙泉

本年は初伝の昇伝審査と云う事で喜びと同時に、少し肩の荷が重くなる様な感じがしております。審査の先生が、深浦三河岳精会長と云う事で緊張いたしました。厳しさや暖かみのあるご講評を頂き感謝しております。他地区の先生による審査を受ける事は、教場に於ける勉強に一層の励みとなり、一年づつ自他共に研鑽の実績を確かめる上でも大変有難く、自らを叱咤し、一歩一歩階段を昇る力としてこれから励んで参りたいと思っています。初めは戸惑いもありましたが、飯田会長、磯田副会長、菅原教場長他ご指導下さる先生方、そして吟友の

ご親切に接し、六十歳を過ぎて夫婦同じ趣味を持てる楽しさ、主人と共に千代田で歩める幸せ。アッと云う間に、夢のように四年が過ぎました。

初伝審査を終えて

ハザマ教場 前田 達泉

今年の千代田岳精会昇伝審査会は四月十七日、会場は例年通り市ヶ谷の宮崎県東京ビルで実施されました。わがハザマ教場は青畳の香りも清々しい二階の広間で十三時過ぎから審査が始まりました。私は七番目、初伝審査の最初で指定吟「軍城早秋」を力一杯吟じました。深浦精正先生のご講評とご指導を頂戴してホッと一安心です。審査は順調に？進みましたが、中伝審査で短歌を追加吟詠された方々は本当に苦勞様でした。かくしてハザマ教場廿四人の審査は全員無事終了しました。それから二時間半、駅前通りの蕎麦屋で前祝い。時間を潰してから懇親会に臨みました。日頃疎遠になっ

初昇伝審査を受けて 丸の内第一教場 関 昌子

大先輩の平井紅風さんに勧められて入会して半年が過ぎました。まだ一人で吟ずる事も出来ない新人が昇伝審査を受けますと井手先生に云われた時はびっくり致しました。六十の手習いと云いますが、私の場合は古希の手習いで始めたので、まだ声も出せず、吟ずるには程遠いと思っていました。

それから教場の皆さんと一緒に練習が始まりました。井手先生が病気で大熊先生、第二教場の岩崎先生も度々来て下さり、ご指導下さいました。そのお陰でどうにか一人で吟ずる真似が出来るようになりました。当日が遂に來てしまいました。審査会場に入ったら、足はガクガク、手はブルブルしてしまい何とも情けない様でしたが、どうにか「軍城早秋」を吟じ終えました。石井精禎先生より、優しい励ましのご講評を頂き大変感謝しております。これも先生方のご指導のお陰とあります。私の人生の貴重な経験となりました。これから吟により一層精進してゆこうと思っております。



師走を飾った

千代田温習会

温習会裏方を勤め終えて

清水教場 山手 英山

旧臘十二月十四日、義士討入りの日に開催された温習会は、在来の踏襲を一変させ、企画運営に新機軸を打ち出したものでしたが、幸い皆様から及第点を頂戴出来、実行委員の一人として何よりも嬉しく、会長始め会員各位のご支援ご協力を深く感謝申し上げます。

この度の特徴は幾つかありますが、目立った点は担当教場制と外来客招待にありますが。担当の丸の内第二・清水教場の十名から成る実行委員が半年前から準備に入り、綿密な計画を練って幹事会・業務委員会等を通じて趣旨の徹底とご協力をお願いしました。

外来客のご案内については、その成否が当会に及ぼす影響を考えると、絶対に失敗は許されないという決意の下、如何にしたら多数のお客さまに満足頂けるか等々、頭の中が一杯でありました。しかながら、日が迫るにつれ皆様の力添えで徐々に申込みが増え、当日は会場がほぼ満席となりました。心のもったプログラムの内容に加え、出場者の詩吟に対

する真摯な取組み姿勢が、お客様の心を大変感動させたとの話を耳にし、関係者の一人として感謝感激、万感迫るものがありました。
この様なイベントをわが会発展のバネとして、益々充実させて行きたいと念じる次第です。

合吟コンクールで何と優勝 草加分教場 安斎美代子

入会して二年になります。草加分教場の渡辺幸泉さんから誘われる迄詩吟に興味はありませんでした。教場を見学して、まず発声練習、地図を掘り作者の出身地、詩の意味、分らないまま素直に、昇段審査を受け、コンクールに参加しました。温習会で合吟コンクールに五人で出場することになりました。練習が思うように出来ないとと思ううちに当日になってしまいました。ステージに立ったら不思議に一つになったような気持ちになり、練習の時先生から注意された事が次々思い出され気分良く吟じられました。
懇親会で『草加分教場優勝』と発表があり、夢のようでも信じられませんでした。嬉しかったです。素晴らしい新年を迎えることが出来ました。岩崎先生始め、陰で応援して下さいました。皆様、本当に有難うございました。とても勇気づけられ、

これからも頑張ります。

温習会「合吟コンクール」に参加して

神田教場 内山 雅彦

会場の深川江戸資料館は、自宅から自転車で十五分程度である。余裕をもって会場に到着した。
開始十時肅々と吟詠が進められ、コンクール三十分前位からメンバーと発声練習で、喉の調整をした。
先生からリーダーの吟じ出しで総てが決まると言われ、私はかなりの上がり性なので順番を待つ間、出来る限りリラックスを心がけた。いよいよ舞台中央に立ち吟じ出して、起承転結の承の辺りから足が震えだし最後まで止まらず、退場するとき列を乱した感じであった。合吟は常と指導を受けていましたが、本番ではマイペースになってしまったかと思ひ、しかし「吟じ終わりで清風起る」の思いでした。会場を移して清澄庭園の大正記念館でコンクールの発表があり、二位神田教場と呼ばれた時、メンバーと喜び合い感謝するばかりでした。順位は総合二位でしたが、詩心の採点は優勝チームより三〇点上回っていた事が何より満足でした。神田女子チームは惜しくも四位でした。後日、先生から「教場長冥利

に尽きる」と云われ、日頃のご指導に応えられ良い結果が出せたことが幸いでした。
今後とも精進したいと思います。

合吟コンクールに入賞して

清水教場 宮武 保泉

昨年師走の温習会合吟コンクールに参加し、大槻、西川、井手、徳本君達と共に大接戦の末、第三位に入賞出来たことは幸せだった。参加する限りは優勝を狙って、村上教場長の指導の下に伴奏CDの選定、詩心表現等の追求を行ない、チームの特訓を重ねた。教場での定例稽古の前夜を利用した。特訓を見守ってくれた吟友からは、並び方や口の開き具合などについて細かな助言を頂いた。私は昨年の七月末に前立腺癌の全摘除手術を受け、体調が十分に回復していませんでしたが、この期間の吟力向上の努力が複式呼吸の鍛錬とも相俟って、手術後の体力の快復にも役立ったと思う。
合吟コンクールでの清水教場の出席は十五組の最後。同じ吟題の「壇之浦を過ぐ」を選んだ教場が他に二組あり、それらの力強い吟や、華麗な着物を舞台裏で拝見していると、私達の準備がまだまだ未熟であることがひしひしと感じられた。

出番となり、唯全力を挙げて私達の練習の成果を会場一杯にぶつけた。審査の結果発表された採点の内訳では、発声で最高点をいただいたものの、詩心と発音・マナーで及ばなかった。しかし審査項目の得点を知り得たことは、今後の研鑽の重点を教えられたものと感謝しています。また驚いたことに、上位入賞三組とも吟題は全く同じものでした。

温習会に初参加
丸の内女子教場 本多 敦子

六月に入会したばかりで、十二月十四日の千代田岳精会温習会初参加で合吟コンクールにも出場させて頂きました。少しでも早く吟声に近づける様になる事、又吟譜をマスターする様にと心がけてきたつもりでしたが、服装を整えるにもお手伝いをいただいたり、吟でも足を引張らない様にするのが精一杯で、自分の出番はアツという間に終わってしまっただよう、もう一度やり直し出来るのならとさえ思いました。

今は詩を追うか、譜を追うかと唯声を張上げているだけの様な私ですが、菅原先生のご指導のもとで少しでも吟詠に近づける様に、楽しみながら学んでいきたいと思っています。詩を感じて、その心を吟じられる様になれたらどんなにか素晴らしい事

でしょう。私の夢です。先ず聞く事、そして感動する事がいかに自分の吟に影響があるかと云う事を、はっきりと先日温習会で感じました。先生方の吟詠に唯々深く心を打たれました。同じ教場の方は勿論の事、他所の方々も暖かく迎え入れて下さって、まさに温習会、主人のお陰も少しあるかなとも思います。初めての温習会、参加して本当に良かったと思っています。



星野久泉（清水）

漢詩

(一)

平成十五年より始めた詩歌研修会は、既報のとおり参加者が交互に講師を担当し、多角度からの興味深い解説を毎回廿数名が受けました。参加出来ない皆さんのご参考に、何人かの方に本号より解説参考内容の要約をお願いしました。

奔放の詩人『李白』
詩歌研修リーダー 渋谷 辰山

昨年十二月の温習会で企画構成吟奔放の詩人『李白』が発表され、映像をバックの熱吟とナレーションに満場陶酔の一刻を過ごしたのは未だ記憶に新しいと思います。岳精流の詩吟教本には李白の詩が最多の三十二首載っておりませんが、長編の古詩以外は大半教わっているように、それだけに李白の明るい奔放な人柄、そして仙界に憧れながら世俗の名利にも捕われた酒好きの大詩人に親しみと憧憬を覚えるのでしよう。

李白は今から千三百年前の七〇一年に生まれました。生地は西域のキルギス説が有力で、伝説では母が太白星を夢見て生んだので、字を太白にしたと云われています。五歳の頃に商人だった父に伴われて蜀（四川省）に移住し、十分な教育を受ける一方、撃剣を好み任侠を重んじ仙人界に憧れるなど、青春を大いに謳歌したようです。廿五歳の頃、更に見聞を広め官途に就くのを夢見て故郷の蜀を離れ、長江を下って諸国漫遊の旅に出ます。川旅の詩の傑作『峨眉山月歌』「早に白帝城を発す」は此の時生まれたと云われます。その後十六年間長江流域を中心に放浪した李白は、時に黄鶴楼で親友の孟浩然の

送別の詩を絶唱し、時に望郷の思いに沈んでしみじみと「静夜思」を詠いあげます。また、日々酒を愛し神仙思想にひかれ詠った「山中問答」「山中幽人と対酌す」には晋の隠逸詩人陶淵明の影響が窺われます。四十二歳の時、都長安に出た李白は賀知章に会って「天上の謫仙人」と賞賛され、やがて推挙されて玄宗皇帝に仕えます。宮廷詩人として思いの儘に過したこの頃が李白の最も華やかな時代でしたが、やはり酒とは離れられず常に市中の酒家に沈酔していたようです。牡丹と楊貴妃の美貌を結びつけて詠った「清平調詞」三首も、泥酔中皇帝に召されていますが、どころに賦したと云われていますが、これが因でやがて長安を逐われる身となります。

失脚して東に向った李白は、洛陽で杜甫と奇跡的な出会いをします。時に李白四十四歳、杜甫三十三歳。生き方も性格も違う二人でしたが流石に通うものがあって共に河南を巡り歩き、大いに酒を飲み詩を語り合いました。杜甫の李白への敬愛の念は、彼の「飲中八仙歌」の中で李白は酒を一斗飲むと詩を百篇作る、酒中の仙と詠っている事からもうかがわれます。李白の放浪は呉越にも及んで、懷古詩の名作「蘇台覽古」「越中覽古」等を生みますが、五十代半ばまでは宣城を中心に江南各地

を遊び、その間「汪倫に贈る・天門山を望む・独り敬亭山に坐す・秋浦の歌・廬山の瀑布を望む」等の数多くの円熟の名品を残しています。又、我等が万葉の歌人阿部仲麻呂（晁衡）が日本への帰路遭難したとの報に接して詠じた「晁卿衡を哭す」は特に親友の死を悔やむ慟哭の情を詠いこんだ感動の作です。

五十六歳、廬山に隠棲中だった李白は招かれて永王の安禄山討伐軍に勇躍参加しますが、官軍だった筈が賊軍とされて敗れた為、李白も捕えられ夜郎へ流罪となります。途中大赦にあった詩人は直ちに長江を引返し「洞庭湖に遊ぶ」など江南各地を気儘に歴遊しますが、最後は当塗で病を得、六十二年の波乱に満ちた生涯を閉じました。

李白の詩は作者自身の感動の激しさと見事な表現力で彩られています。とりわけ旅・酒・光をテーマとしてでなく素材として鮮やかに生かしてっており、酒に酔って川面に映った月を遊び、酒に酔って溺れて死んだという伝説は、この三素材を首尾完結したいかにも李白らしいエピソードと云えるでしょう。

平成十六年度昇伝者（敬称略）
おめでとうございます
中 伝 丸の内第一 右ノ子菱山

初 伝

丸の内第二

東陽町

清水

神 田

ハザマ

鍊 水

草 加 水

神 田
ハザマ

丸の内女子

（以上八名）
山手 遙泉
前田 達泉
二宮 祥泉
仙田 土泉
粕川 恒泉
古川 章泉
渡邊 正泉
青木 恭泉
（以上廿四名）
樋沢 桃山
加藤 虎山
遊佐 峰山
宮澤 修山
羽生 田山
長谷川 藍山
中川 睦山
高橋 曉山
駒沢 涛山
功刀 蒼山
村井 蓉山
酒井 帆山
池田 康山
西川 宗山
湯山 申山
山手 英山
上田 也山
太田 緑山
細田 舞山
野沢 柳山
高橋 辰山
本多 弘山
岩崎 桂山

吟楽部門吟行会 春のうららの千鳥が淵

四月三日は久し振りの春霞の下満開の観桜吟行会となった。

しかし、武道館は某大学入学式、千鳥が淵は見物客で芋の子を洗うような混雑に加えて、戦没者墓苑も慰霊祭が行なわれており、全員合吟は諦め菅原克山吟楽部門リーダーの指示で、途中の桜を愛でながら会長以下総勢六十名に近い会員が汗ばむ日差しの中宮崎県東京ビルの会場へ三々五々向った。

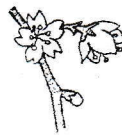
清水教場湯山申泉さんの道すがらの発句が会場で披露された。

漕ぎ寄せて

淵の辺の花筏

たもとほる

風の流れに散る桜



得自楼

会長の音頭で乾杯のビールに乾いた喉を潤し、何時もの郷土料理に女性会員心づくしの手料理、漬物も加わり一気に盛り上がる。程よく酔いがまわったところで菅原リーダー苦心の力作「春を詠う」の五十余りの吟題集より、独吟、合吟、連吟と特意の吟の披露が始まる。詠いに集った仲間達、続々と出て終わりのない吟楽の一時が続いたが終了となり、「四季のうた」を全員で合唱してお開きとなった。

(丸二 八田)

入賞者十四名と最高記録 全国吟剣詩舞道吟詠コンクール



三地区で三十九名が出場し、入賞者十四名うち初入賞者が九名と嚇々たる成果でした。都県大会に出場する資格を獲得した九名の方々と、昨年実績の一名を加えて十名の方々が五月に更に高い目標に向かって都県予選に挑戦することになりました。お目出度うございました。

品川区予選

三部二位

二部五位

六位

入賞

港区予選

三部優勝

四位

六位

入賞

二部入賞

一部三位

入賞

川崎地区予選

二部入賞

前年度地区予選成績による都予選

出場

☆印は都県大会出場資格獲得者

☆林 吾風 (神田)
☆加藤千恵子 (神田)
☆菅原 琴風 (丸女)
池田 康山 (神田)
☆渋谷 辰山 (東陽町)
☆金子千枝子 (東陽町)
☆中川 睦山 (ハザマ)
☆功刀 蒼山 (ハザマ)
青木 隆山 (東陽町)
名取 六子 (草加)
萩原 晴久 (ハザマ)
☆二見久美子 (草加)
青木 恭泉 (草加)
順泉 (清水)
☆橋本 淳泉 (神田)

独吟コンクール四度目の参加 東陽町教場 青木 隆山

此度は、吟詠コンクールに参加すること四度目で初入賞する事ができました。近年「賞」に与かる事もありませんので些か興奮を覚えました。当日は朝の凜とした気持ちで会場入りが出来、出吟順も十五番目で緊張と集中力が程よく持続できて味方してくれたと思います。コンクールは参加するためのプロセスに大変意味がある事を実感した次第です。早朝から磯田副会長はじめ岩崎先生、教場内外の吟友先輩方の応援を頂き有難うございました。私は未だに実家で半分仕事人をしており時間的に思うに任せぬ時もありますが、縁あって出会った吟道を人生の伴侶として楽しみ、歩み続けたいと思います。宜しく願います。

常にチャレンジ精神で
ハザマ教場 萩原 晴久

早いもので私の吟歴も已に三年が過ぎ、今年で四年生になりました。入門当初からチャンスがあったら挑戦しようと思心に決めて、今回が三回目の出吟です。教場での早出、居残りの練習の他に飯田会長のコンクール出場者特訓をも何回も受けまし

た。五言絶句独特の詩情、「を」の
発声等々厳しい指導を家に持ち帰り
家族の迷惑をも考えずに復習です。
エントリ―してゐるからこそ受け
られる特典です。

また、特に私の印象に残っている
のは武道館での合吟コンクール出場
です。岳精流五〇名の吟士が川崎の
本部で半年間に亘って杜牧作「漢江」
の猛特訓を受けました。特に発声法
の講義は圧巻で心に刻み込んでおり
ます。他にも川崎の全国大会での合
吟コンクールにも千代田の補欠要員
として稽古に参加しました。

この度、港区での二部入賞を契機
としてあらゆるチャンスにチャレン
ジ精神を持って、努力を積み重ねて
行きたいと思っております。
どうか今後とも皆様のご指導よろ
しくお願いいたします。

初めて吟剣コンクールに出場

神田教場 池田 康山

三月六日、今回初めて品川区連の
吟剣コンクールに出場させて頂きま
した。昨年は応援のみ、今回は出場
と見ている立場と出場する立場とで
は緊張感がこんなに違うのかと肌で
感じました。

教場長より「コンクールに出る事
により、とても勉強になるしマイナ
スになる事は一つも無い」とのアド

バイスを受け、重い腰をあげて決心
いたしました。コンクール経験豊富
な教場長がおっしゃる通り、まず目
的に向かって練習出来た事が私にと
って無駄にはなりませんでした。
当日、やっと吟じ終えた時はほっ
としたと同時に充実感も味わいまし
た。結果は惜しくも十一位。でも優
秀賞で賞状を頂いた時は、とても嬉
しかったし快挙でした。心配してく
れていた主人にまず電話で報告、娘
達もメールでお祝いしてくれました。
審査の先生から「いかに伴奏に乗
って詩情を出して吟じるかが大事」
との講評を頂きました。
今回出場したことで、来年はより
上位を目指して勉強しなくてはとい
う気持ちになりました。最後にお忙
がしい中、指導して下さいました会
長並びに、朝早くから一日中応援し
て下さった皆様に感謝する次第です。
有難うございました。

地区予選を通過させて頂いて

東陽町教場 金子 千枝子

三部になったので、挑戦してみよ
うかなと気楽に吟じたのが幸いしま
した。港区連で三位に入賞してしま
いました。長唄・日舞と邦楽の世界
にいた私は、詩吟とはただ赤い顔で
怒鳴っているとの印象しかありませ
んでしたし、その上電話に出て母に

替わると「今のはお爺ちゃんですか」
と云われる位の悪声の持主ですので、
この様に詩吟に傾倒しようとは思っ
ても見ませんでした。詩吟には、人
の心を打ち、魂を揺さぶる何かがあ
るのでしょいか。聞いていても、吟
じていても「人は一生懸命正しく生
きて行かなければ」と力が湧いてま
います。

第二次世界大戦では父も戦死しま
したが、今日の平和もあることを思
くの方々の犠牲の上にあることを思
いますと、享樂的に生きたり、あま
りの贅沢は罪惡のように感じる年齢
となりましたが、そんな私にとって、
詩吟は大きな生き甲斐となり、また
指導している『剣詩舞』にも大変プ
ラスになって有難く思っています。
素晴らしい趣味に、また素晴らしい
先生・心優しい先輩の皆様やお仲
間に巡り会えましたことに感謝し、
人生に、詩吟に一生懸命精進してま
いりたいと思います。

初めての体験

神田教場 加藤 千恵子

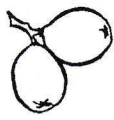
友人に誘われて詩吟を始めて二年
になります。教場長、お仲間のおか
げで楽しんでいきます。気楽にコンク
ールに申し込んですぐ後悔しました。
七本以上でないと不利という話、
私には七本の高音が出ない。家で練

習しても水三本位の声しか出せない。道を歩きながら大きな声を出して練習。それにCDの伴奏を先輩にテープにダビングして貰い、繰り返し聞き覚える。またテープに合わせて吟じてみる。もうやるしかない。駄目で元々と開き直った。

コンクールへの挑戦―その結果は、私もビックリしました。五位入賞と呼ばれて……。いま当日を振り返ると幸運な点が幾つもあったと感じています。同じ吟題の人が大勢居た。私の順番になるまで一緒に吟じて練習ができてきた。そうしているうちに気持ちが落着いてきた。審査の先生がすぐ目の前で、こちらを見ているので驚いたが、CD伴奏が耳にしみ込んでいたので上がらなかった。そして高音がでた。

思いがけない入賞。それにしても私の出場に対して、発声練習をして下さった教場長、諸先輩、また他教場の先生、有難うございました。

『新会員紹介』



◇草加分教場 大井 俊男氏（一月入会）

当分教場初めての男性会員。草加在住の方で、和田精栄先生の地元教場紹介で入会です。お人柄そのままでの吟で、正確積極多感、初の昇伝審査を楽しみにしておられ

ます。女性一色の草加で、何より岩崎先生がホッとなさっています。

◇飯沼 啓子さん（三月入会）

明治OGの橋本、加藤、上村さんの紹介、幼い頃から歌を聞くのは好きでしたが、詩吟は初めての世界。「何時も背中を押されながら取組んでみたい、無我夢中ですよ」と云う。四月の昇伝審査では推められ「春を探る」で挑戦しました。趣味は内外の旅行でデジカメに興味を持ったとのこと。

◇西山 定男氏（四月入会）

武藤孝氏と近隣、趣味の会で十年越の交友関係があり、今回入会。昭和十四年生れの九州男児。神戸製鋼OB。北九州十年、東京三十年在職。三年前退職後帰郷せず東京在住。九州時代に経験した詩吟の世界に再没入となる。囲碁、釣、ゴルフと多趣味の好漢。

◇二井内 貞壽氏（四月入会）

ハザマ教場
五年前から佐藤甲山さんの誘いに慎重検討のおり、この度萩原晴久さんの勧めに満を持しての入会。毎回積極的な吟詠ぶりです。現役時代から四十年続けてきた囲碁は四段の腕前とか。家庭では二吟一寸評厳しき奥様と、幸せな日々を送っていらっしやることです。

◆平田 俊風氏（丸の内第二教場休会中）
三月廿五日ご逝去されました。享年八十一歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆溝口 徳泉氏（清水教場）

三月廿八日ご逝去されました。享年七十八歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆井手 龍樹氏（丸の内第一教場長）

四月廿四日ご逝去されました。千代田第一世代の会員として飯田会長と共に歩まれ、丸の内第一教場長他要職を担当、今日の発展を支えられました。享年七十一歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

温習会の大成功。吟詠コンクール多数入賞。そのなかで千代田創立廿周年を睨んで機構が整備され、組織強化が、岳精流の会員増加キャンペーンと方向を一つに動きだしました。この時期に、お三方をお送りしました。精一杯働いて、晩年に吟に出会い、この道を存分に堪能されたことと幸せであったと拝察しますが、掛け替えの無い先達を失った事は千代田として大きな痛手です。心して日々精進を心掛けましょう。（八田）